国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

写

漢の董永。魏の聖武皇帝の故事も類せり。
唐國みな例多し。我国のみ。
あらず。天女下りて羽衣を失ふ事
事を元として集せ風土記を引
よる。曽祢好忠が歌。
たとめこそ。羽衣の
こそ。近江國のみとあり。
みな説よ。阿波國天の河なる事
あらず。今

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

孫河岡より始りとぞ。後林泉に隠居
法師うどを尋ね。天の羽衣昔きて
そのことなるを伊豫守資業が子の時
伊豫国なる事。守駿河国なる富士
羽衣のおもしろある伊豫のみを
あやまりなるべきものよべく
阿舞とおもふ駿河國有度浜を
うせる物なりと童蒙おもふ

事ふるあらぬぞと申すは昔の代語
なる。その所をさぶろなるぬるべし。
せる物語い駿河国うど浜
ようのつくづく語り出るを
給ようつせるなり真偽を
懲のさまみを集なり。
ある参考ごろなるべし

六樹園

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

あづまにそびの駿河舞ともの
ありていのりある詞ともゝ
下ざくに舞うさひつるをう
あまたゝさゝのみ抜出し
おもしろものあるを。

東遊 駿河舞の歌

○うど濱よ。駿河おろうど濱よ。うちよまる波そ。
なゝくさのいもを。おゝくさのいもそよし。
おゝくさのいもそよし。あつるとき。
いざゝいねんや。あゝくさのいも。おとこそよし

○あなやさゝけ。あなやさゝけ。あなや
ねりのをの。ところの袖をゝ
○ちどり白玉よ。濱よ出ゝくあそぶ。ちどり白玉よ。
あやもなき小松がうらよ。あをよ。あをそや。
なをなをさうそ。
○いもさゝえ。かさゝれて。あなやさゝけ。
ものだゝもゝくもがなや。かさまつりおうん。
かさまつりおうんや。あせがそのものぞう
まゝざゝうん。いさゝなるやゝくのものそ。
ちうきとありを。ちうきとありを

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

上之巻

○三保浦　○磯田濱　○舞笠

下之巻

○かくみのこがね　○物花たをるおうぐち

○尼法師廿娘の君　○おまつをとめ

○名ぬのこ

天羽衣上

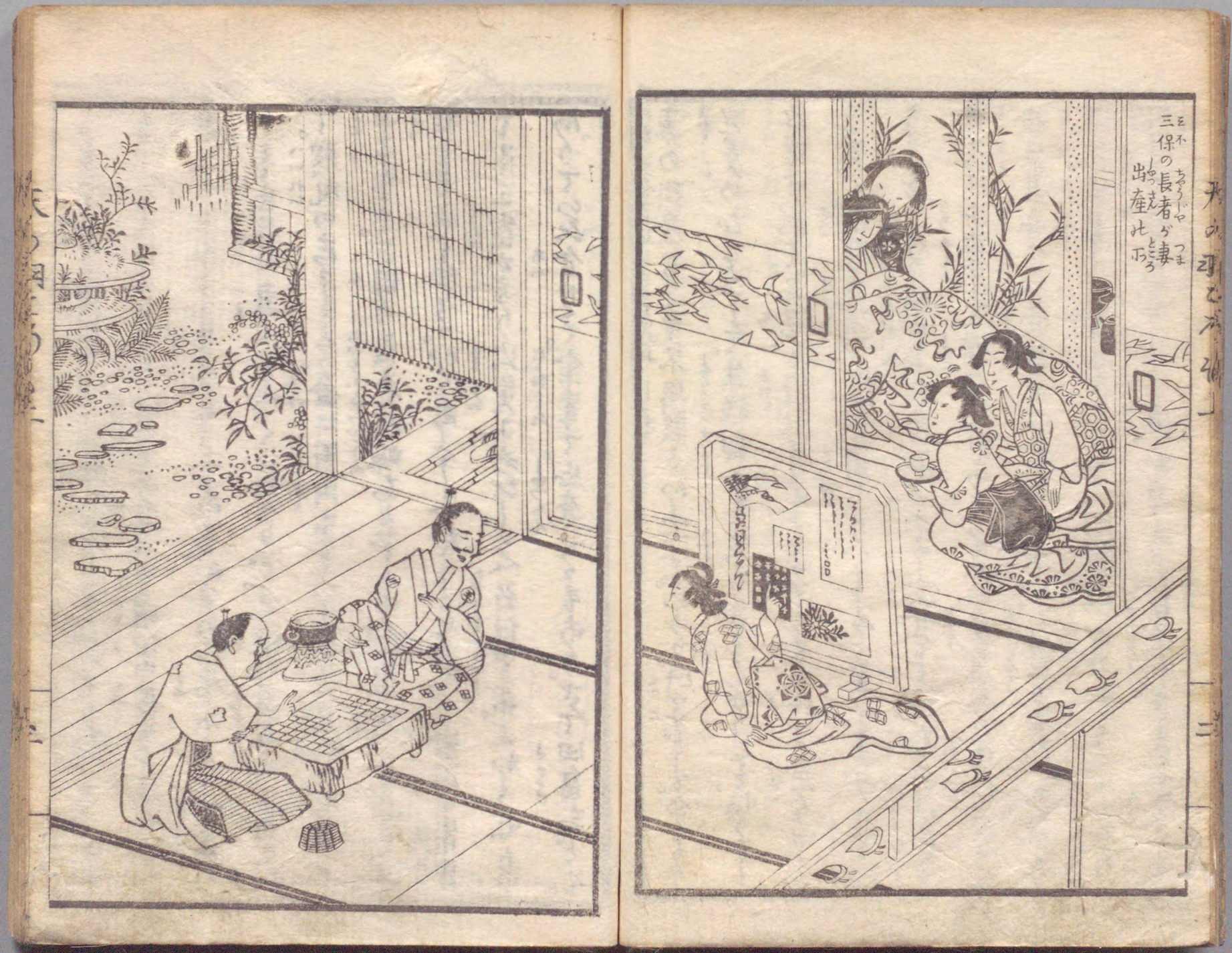
○そのうら

安閑帝の世時代を知りがたし。昔駿河の國有度郡に三保の長者といふ豪民ありそう。同郡に磯田乃長者とめでたき者あり。相ともに栄らざる富める家ふたく。田畠数多のもち子召仕のの。多くありて。細ひ仕事を國と一出して商ひそう。此磯田三保の二人の長者がさま小親くかよひて。うるはしきなじもちあり。昼夜をいとはざる二人さま〳〵むつびて。歩樂み興じまり。ゆくさ

十月の初の比例のごとく暮うちてあるよ。三保の長者が妻俄よ懐のけつきて。なやみくるしむ。家の内さわぎよめみくるうち。程なくくと男子をぞ産ける。残田も叶さわぎ暮をおさえて。ゆゞて家よ取りくるが。おもはも甚日夜よ入りて。妻ある物。おゝく男子をうみぬ両家ともさがろうの豪富あり。くるしむを産養の祝ぎこゝやして出入る人ひきもきらず賑ゝしき事ひくさらなり。さて一二日を過して長者お人生あひく。年ふ出産の悦びかぎりなくて。残田ら叶ふ程ふ一日の中ふ相共ふ

妻の出産せる事不思議とのふぐ兄弟のおもひて。生涯親をを失ひざらんやうこゝねがひ。三保も喜びて。さてくる子どもの代よ至りても。まさくく男子ぐとて。盃とりかはして。めでたき祝言をぞあそばす。残田名をぞらうみよぶごきとのふぐ。三保長者おぢ〳〵歩案じて。時ハ十月あり。十月ハ良月あり。陰身の子ども。夜生ま吾子ハ昼生ま吾子ハ昼生ま我子ハ白良とよび。陰身乃子を黒良とよぶぞんそ。らうみとらくだ。残田おぢをそ。黒白ちをくて昼夜よおぢ〳〵事おの〳〵白良ら。さき身生を一生

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用


三保の長者ゞ妻ところ出産せり

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

ゝまさで兄ゝ定むづゝとのびて。あにさだ
まじきよう。よく出まゝくぞ。
まじきよう。よくでまくぞ。
まじきよう。よくでまくぞ。
まじきよう。よくでま

かぐ余所ゟ見ん道理あり。恩とも
そのもち光陰ゟもて白良黒良八と
疱瘡を病ゟ黒良ゟいかろく。さるく快気
ゟる丹白良が疱瘡のとおりくて命
寿の父の長者あがき思ひて三保の
白良が命救をせのひあんと肝膽を
まるしやありさん。からうまで。命ざ
さしくなきめさぐらしうは生つきあ
てき顔とありて疱のあと。ひまもあくつま。さろを膿を

さあぐら鬼のごとくそ見えゐる。さる
をおめき功ゟて男子ハ顔貌を
討めつ。いよく大事ゟ去ゟく昔ゐる。
人まくめくつふ者ハさらあり一村の
丞悼びて惜をかけゐる。一年駿河遠江の
国自田をおくく流くゟ生ゟ賀ゟとも
飢ゟく死ふのくさんとさ。三保の長者例の
舎を開て積ゟ粟ゟ米あるども出しく
人を集りて。穀物あまくく買とりて。

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

つろをゝゝゝ生ぜ。ゐ難よあゝつる屋どもゝ。叶三保が恵よよりて。
若き命をたさかりてゝ。ゝゝゝゝよ長者が徳をそ楠ゝゝる叶
長者。さる田舎よ生ゝちゝゝ生ぜで。志篤ある者ゐゝ。聖経乃
道ゝゝ去ささぢをゝ朝夕自哀ゝゝゝゝる。白良ゝ。醜き面
ゐを似ざ。あゝる忠直ゐゝ書の道よ心をゝゝ。習ひ学び
ゝる。時よ三保の長者。ゝゝ。誕辰の日よ當り
て。迎きゝゝりのゝゝを詰て。酒のまぜゝ。あゝゝ郷賓應ゝゝて
をてよ。ひとゝの椹ゝり生て。のひゝるゝこ生よ入置ゝゝるそ
年比近村よ住めるゝゝ。来金借生ゝつる券ゐゝくゐ。よき

借りのゝるゝゝ。名今日を。ゝゝゝゝゝゝ生ぜ。
返ゝのそん事。實よ難かるゝゝ。
ぎゝ永叶寿ゝゝよ返ゝゝまゐゝゝゝ
捨のゝとて。ゝゝゝゝゝゝゝ生ぜ。借りつる者ゝゐる大よよろこび
て。さゝゐ悉き出ゐゐ。ゝゝゝゝ。利息をゞよゐせゝ。
つるを本をゞよ取りのそゞ。
かゝゝゝゝ。額ゐ手をあげゝ。ゝゝゝゝゝ。
ゐゐゐや。あゝかゐゐゝの。ゝまゞゝゝゝ生ゝておゝせかゝあゞ
ゝりゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

長者かりそめの頃のひゞなるが。定業あやまりぬ。
ふひと弱り母弱りて。絶ゆあくそ成ゆく白良ぞさくら
あり。母がありさま。大方あらざさまでぞ。かくの
おとく。葬送の事。とりのくおきて。むあーき煙とあーくも。
さて白良を。実よ別きてより。ひさ筈も竜りての主暮しまうが
ゆうしら姿のやうよ七年だりをるまでぬ母白良が学問よ
のと心をいきて。ひさきそうとぢ筈も竜りをまだ疾ひあや頃ひ
あんと心をつらひて。おくくを涙づくも一生く。心をも慰めよとて。
のどうある日。あなぐちよ。歩ーくそ母ぬ白良今年十七よ

ありぬ。鏡よ向ひても。我身あなうとまーき面ぞをまさび。
若き心ゆそ。耻おりひてみぐうよ外つ生る事もせざりき。今日
そ母の。志ひて進めるよ生ずとてぐ。
往々る。をりかう七月の比ぬく暑さ堪げくさかり久まぞ茂ゆ
くう松のやとよ笠お着て推ろつくう鈎竿取生く浪のまみく。
絲さーおろして逍遥ーをりお見ぬぐくさよみな海のおもて
そ。そうぐくと見てくさまよて限うもあさよ。帆うみくう船のう
さぐゆうよ見ゆるもおうー。磯辺の松を。緑のう漕ぐ。むうくと
立くう母。よせかつる浪い白玉をちうさぐごとー。朝こぐ舟ち

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

よーあーふよ。よめりそんも。ぞよと。見ることーあーるよ。おあさ
あう松うげの。なちあんよ光りて見る面。おあーー何ちゃーんゃ
ちづうゆ。あゆみ行きて見ありしさだ。なてるふうあう女の唐
衣着しうが。五人なうり。舞かあでく遊あそびしうり甚ようさあぐうう
繪よかきしうう天人とうふ物のおとこ。ーー叶あーうよ。かうくんろ
あうべきやうあーー不思議ありと目をつけくをうよ叶天女
しうち。よくく舞よ心やとうーくん白良が伺ひをうもちくで
なのまくび袖を返して舞うふさよ。おのーうき事。たとうる女
物あーー。ちよちゃん。天上よりふめう霓裳羽衣曲のおとおめひく。

且感ーかつ驚てーを。をとう松のうーうを廻りて遊くようて
見るまさず。松が枝よ。五彩よ光まる衣一かけくありが。まき渡まる
おとう。玉をのべうりがとーー。かーとーーき事のちんかーふーー。
のくくか。の衣をとり見るよ。かうぞーー
白良おのそざと声うちあげく。あちよ一類ありき衣うふとのふ
よ驚きて。天かーちひとーーく白良をふる。白良地よふーてん。
偖あやまって。市遊をさるようげつ。とうのくだ。天かうちをとう今日
相逢ふ事因縁あり。汝が家世と陰徳をつあう事。ちあく
天宮よ。ゆうそぬ。よりて叶衣去ぞーー汝よ頭けつうをありこれ

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

秘めおきぬ。さいさひよもあらざ
あざ。なみまゐりて甚夜ふけとろ
そそのごくふ。さませのうる。佐かごぐみや。と宮ぢ海さざ
天帝ふ十二億の天女あり。そ寶積經ふもさろ
但沙宿業よりて今志ぢ。夏なめをゐ見ます。あるぢちみ
稽るさとおう里。と云ひて。たおびく
ひとく雲居をさてぞ。のぞり行きる。白良いうつ心も
あく。大空を仰ぎてあよりぐるが。あまりよ奇異の事ある里
ぢとく乃りて母よ告ぢやとて。かの衣を袖ぐさよ。狹みく。

道を急ぎて行くうんとさるみ。おかひげあく黒良赤あひ
ふうと里を納涼よ出るとと見そて割籠酒筒あごめるを
て。四五人ともつ里てまり。白良をゐて濱よ遊ぢ。
あり一杯をさてめちん先とて濱よ遊ぢ鑓ちせて手を
と里ぢ。いちむづきよあふねち。のぞり居さる黒良ひさそう
酒をうがて。白良よ志ひ飲ませめとよう白良下戸ある
うへよ。あまくび強ら里て。つづけ飲のをるくくまで。前
後を志里て歩倒ぬ黒良仕ひまる者ちよ用をくそも
て白良が持くる衣とりて包よ入まて。従者よ負てを醉卧

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

白良が
酔卧る
不ど
黒良
羽衣を
ぬきとて
行くふ

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

くる白良をば。砂地よまろばし。鑓の
醒ぬるどよとく立去らづ。此衣よめの
様に。着ありる寶ありづくよき所得まつと
久。喜びの舞々る時だりうて。白良
ず黒良を見ず推ろ〳〵〳〵羽衣ぬ
盗てめち行つるおらんこと先ひて
おひおんと心も心あ〳〵ざめうて足
めとぬ往ぬ黒良ぐ門よ〳〵ち吾よ
をりづ。黒良つ是あ〳〵雛つくりて
つまど答ぐるおのまねだ。ヒ生く。その
いうある物もちてあり〳〵我ち〳〵ぬ
云く。ち生そ。おの生ぐ物みてもいたざ
くる物ろく。先ひてそ。世子ぬ。あ〳〵生ざ
とりづ。黒良ちくぐちて。さてそ我盗〳〵ふあ。おの生
も殘田ぐ子あり。何の不足ありて人の寶を奪ふつき。
あ〳〵みくりぐ白良ち君いうぞ盗ち
かく〳〵のるあるぐ〳〵とりづ黒良ぐ下人どる立生て。ヒぐ主
を盗人とさ〳〵たる。案ぬあり〳〵て。答めくりのあどやうて。

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

立かゝる白良も。走りて爭ふんあり。かゝるが盜とつるとらふの證據
擒もあり。耻を見んも中くあるうと。男ども返して面をつゝみぬ。
てそゝろさらだ。走りせのそねみ走る。
時も。鐘ちどの中も。まぎれて。入りやすからんと。男ども。同じ
ゆえつゝあり。さらんみそ。異形を尋て見ねちんやうにく。
乃ちあく異良が下人ども。口こそ我主なれあらぬ事をらひらけ
つる不當のもの。死ぬがうあり。走りさきてさそゝ百さめあど
いふを。白良ぬあり走らく乃ちくるが。道をかゝおめひ
くるそ。とまかく丼。汁衣異良が奪しるまたがそで。走づくま

たづねさぐるづゝと思ひて。家より乃ち
くる生ざ。母もあやしみ且驚きて。まづく心を。をさめて。よくく
尋ぬづゝとそいひくる。母月比を經ぬるど。よき手がゝりも
あくられ生ざき時もあくて。日をそゝりくり

○いそぶの濱

此三保ノ家さゝもあゝびあき富家あり乃ち
物を施す事。過ちあるうく。さまざま家財の半をつけて。猴田が
家につうとゝ。又国中の飢饉を救ひちぐしそ年ぞうう
ぐわどそ。昔の十ノ一あも。及ざるあうま。おとろへおとろ。白良と

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

母と爲うざて家事をいとまなき身で美かひ〳〵かゝずて。
年ざとよ。おのふよ叶なで今いもちほ〳〵くる田畠あどを。
傾ものいきて甚ろをのて世を送りくる。やつれくる男
女どのく。かくおとろく行くを見て各さ勿〳〵の事ぞかこつけて。
いとゞ舌をこひて出行々ざ今いたづら比やつれくる。
久とのふ翁二人そのうり為くる者
おく心あつく。美よ心を用ひてつとくる。筏田が家も。年どろ
さざり親〳〵かり〳〵。近き比とあり
て事あく。いとく縁遠ぞありくる。筏田が家も。年ざよ。

非成て田畠あどくも。数そひさく。熟力多くなりくる。
三保ゞ家の囲爺を聊たさけ生ろさざ黒良めくよう。
おとくぬ。たゝゞろある者ぞ物のあ
つまあくぞ。ふるまひろる。妹のお松ろ。
自ろおろざくも。あゞてあゝざ美〳〵かり
おとくせろろ娘ぞをさおき時白良ゞ
かり生ゞ家年くおとろく行くのとあゝ
さちあゞ鬼とそのゞく見面さる。のの
ゞき。近国を尋てくゞ。ろもおゞろ者あゝざ。聟と定

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

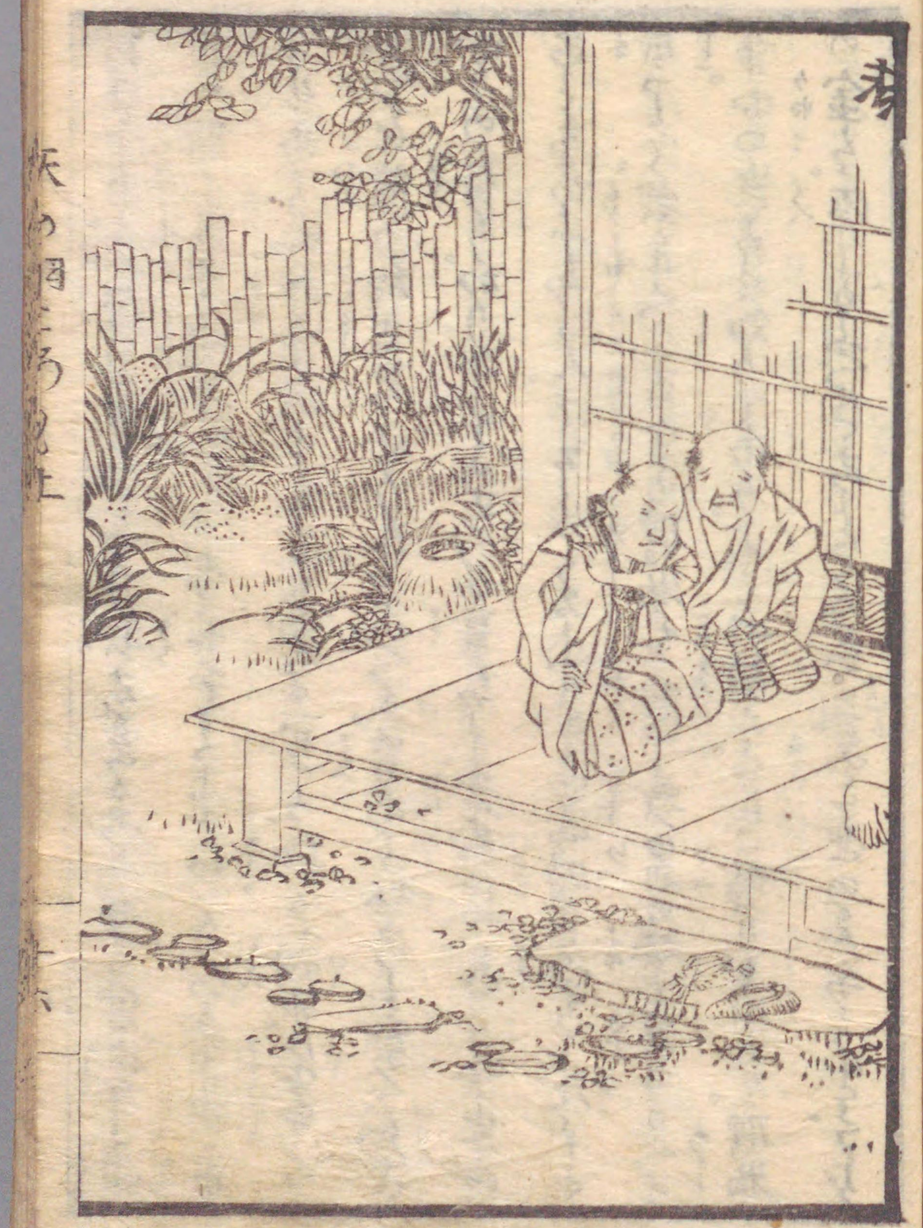
づゝとらへて妻も同じく心ねぢけたる女なりければ主の
契りをも思ひそこなひもぐうちあづけてそこを
ば家をも次第よく負くなり西けば残田が方へも
せざるを老僕あるを久しくたちて毎のまつよ生てとらひ
くるを故主存生の時家財の半をつけて残田がもとへ
遣りさし事我ある不あり。
あとよりおづけしもの一時二百両の聘あをつくさゝれ
を以て家主だにろく近国をも吟あてんとせて婚をえらばん
いさゝでとろ。あまりまをの残田がふるまひ再

ぬ。おの主かゝとよ至りて。昔よりの故主のあつくやどませ
もつる事あるを中生てづゝ恥かせてはひちんとらよ白良が毋
涙を同ようけて云そるを。泌がらへ。我家
今いまろづき浪見のくぶよあるを
ともいで勝をとるづき。とあかゝよ云がひあさ成ま
ようとおぐゝを白良云くるを。小松い顔ざせもく人井さぐ生
た生ざ我醜きを厭ひきゝちんん事さもあるべし。我もまゝ
強て昔の契りふかこちて彼を迎つん心らあるざ。たゞ残田が
家もろく父君の恩を思ひて聊あるれあざ。

うまてかくんとらのくだを久さぎうりめの事をらうで住つぐぐくん。
おのきそん筏田がめくよ至りて口をひくきて見れらんとて
くうを母かまくて口論をどきて無益の争ひあどあせそ
とらひつけて生ーぬ久ちらそぎ筏田がめくよ行きて門ま
入りて久さそをありてとくとらひ入生さ世て待あくるさ時だくり
過ねきどく出てあそだ久まくさ下男をまねきくさりくみこ
のだ奥さなへ入りくるまーくせざて日暮よみぶ
ひてれ女出まて。こあくことて久をともあひて庭づくひて是
行きて縁のうえのだ芳。お去だしーありて。障子明さ世てく

奥の方よ茵安て筏田まお婦あて。過よ久を見をりて何おく
ありて来りくとらふえ月をおげて見
と見る者七八人あーびあて事の体のとおざそうとあ生だ。
ちよ膿くりをまどくさてるむべきあ
のふがちく三保の家今ら一月のたくさくちゃをくひつで昔乃ようみを
とも安き炉もあくふをらくあとくおぢーの比て。今日の見どうきを赦を世のひちゃん且ら陪ら者の
むさびまの比塔君の店整りもりぢ。店おめてあ世ひちゃん
とのふを炒もあくぢ筏田方声よ云うへ。汝ら主の家おとろく

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

行きしかど天蓮のさるおわり。我主家
みな頭を集る蠅ともおのがじゝおだち
あれおのゝ他人のいふことを。きゝごと
むつび婿の約束まうしあはすこゝろ
ありの繋りかりふぢよまうす事あり
ぎゝをのふあんとそゝうそふをさて
成て我主人二百金の聘物を贈て我家の婿と定めりと
事おの〳〵よく知りてあり。よし此縁ちぎさき破りありとも聘物
の金を。返しのぶきさりあり。

主人さきよ家財の半をうちて贈り物しのまだかゞく
今の三保の家の貧乏郎を救ひみそんこと。
声あゝうれしのだ。残田つゐちて扇とりて久ぐつゝをさ
そうよおゝきて我家波ゞ主人よりの恵ぎり物を受ける
事あゝ貧よせありて作りぎりとをかまへてふとそとてかの
扇を久よあげつけてつとあゝつゐりぬ久怒りの眼よ涙を
うるめてつゝりぎとさそうそ。ねゝあゝふとそあ主恩を知ぐざる
そだよ常そうる心よとのゝだ。手代どもよ立かくりて手をとり
あげて久をあゝくゝをさ大弊ぶゝく。手足

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

とりて。妻へかき生〳〵て。大地くうち捨て。皆々りゐ。白良ヶ宿よ
り。左て。久〳〵逢りける事の。遅りるを。不審ながら。
宿を生て。筏田ゲ門へ。来り見るよ。久大地くうち倒れて。両々共に
聞馬てゐ。かく介抱して。肩よ引ゐけて。寝りくぞつ生。有りける久
家よ入りて。二人よ向ひて。泣〳〵事の子細を語りける。親子も
共よ。涙をこぼせんかくあく〳〵涙をこぼさて
聞の口ちく〳〵き事共思つど。せんかたなく。
ぞうりあり。さて。筏田ゲ娘小松を。ゲ久よ。おうひて。罵りいひ
しる詞を。一間の内よて。其夜毋よ向ひて。こうひくるそ。
今日父のゐるよ。こそ〳〵よく生てゐひねよりるよ。かの久ゲ

らゐ。ゐる。理明らゐかく。不當のあと。ひと〳〵もゆるぞなく。父の
詞よる。道理ゆゐ皆きて。おそろ〳〵生さまざくゐえてゐさまざく
三保の家より。百ゆく。我家を恵つる事を。幼きよりより我も
見ゆゐりてゐ。生ゐるよ。その報をも
よくきて。退生〳〵の多る事。人の思ゐん。ゆゐも心ぐる〳〵。我身ゆの
家と縁をくみて。聘おとて。金うけとりのひ〳〵おとる。乳毋ゲ
物語ゐく。そ〳〵く少おきてゐ。白良どの。たと〳〵醜くゐ。白良きん
ゆゐも。一こびまと。定めりへ。生ゐ。今さくうおあ〳〵よう縁を
よへつきおとゐりゐぞて。安そ二人のまをかよねざとヤさ

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

事そ。仮字草子物語のみみあるも。
うをさまくてゐを強くかことの縁をもて異所へよめらせん
と。志のふかき父母の慈悲みをゆるさで。
いきのをのあり。三保の家今宵くたく
改なづき道理ゆるさで。とうちうを
あきらてくる鶴色くく。貧窮のうへま醜くて。世ふそ鬼
白良とゐあるを彼あくも添んと思ふこのうちあるもあう。
沙をさあるとぞ。物の心をあくくたく父母のふまうせよ
とのくど娘を頭うちありて。のくくどよせぎりくあをと外

娘ふる無慙ある親の子あくて。さがうり滑をとさきうざく
を守るる事。聲聞のごとは。舜の生母
おくをさくき心ぶをなりそる

○まひくけ

あくは志その長者といふ者あり。黒良よひとしきえせ物
ふて。常は酒を好を色みあるりて。いとき愚くる男ありける。
若くて黒良と親あくきりそるが。小松が白りのさぐれるを
見て。妻はせどやくと思ひ々をとで。さまざまうちつけふらひ出
ざきあくねど。禍福てありそるま。道きふよ。品佛とのふ尼

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

ありし。是ぞ筏田が家つる。行かよふ者ありと呼むらく。
物ともせずおごれる。かくひそまで尽うけひきて。
筏田ぞのく行て。志ろくと語りぬ。志太ら。筏田は勝りて。田
自も多くもてる者ありと。筏田親子ありよろこびて。娘
小松ぬも志ろせざまをきりて。つくをぞ
志をも。叶事を望て。限りあく喜びて。聘物とのく。吉日
をぞ待居ようそる。叶即佛尼を。叶
筏田の両家よりあつく財どもを贈り
徳つきてろとてぞ居ようそる。一日尼家ありて。佛前

ふて。延よみ居るよ。井だうの女の。
いまて。持来てあまを佛の前に置て。ぬづきて拝こをり尼と
見てのづとの泣くぞと泣ぐぞ。
よ。をさあき時よりつくる。雪井と
だうむら〳〵男のちて。隣の国に住てひく。あまりに古主の
あつ〳〵て今日かこをありぬあるよらをだ。尼ぐらそく。
おの主叶度筏田の姫をかこの志太どのく嫡てん。さん
とし明日そ。志をあより聘物を送りまぐ。
家つ告なをく〳〵と思ふ二ありの。いざ

とらへおさへてゐて。やをらおひて。立出るを。
簑をもちゐるまでもなし。尼その内あるもの何まてゆらと沼にぜ
おろして。山つとる取りつゝ算おてゐとのふ。扨も。今のおど。佐
佛よりもりのうるさ。そもやとのふ尼さへ
け佛のおんおろ〳〵。志をの家に贈りやさんとて。佛のまへ
ある鬆行簑をとりて。持てゆく。尼そを途中て志をう家よたち
よりて。鬆簑を見てみつゝおどろきて。後田が家に行きぬ。後田
夫婦尼ど来るを見てさもぐとめて。さて。簑を
見てあどろき久〳〵まもなくまもなく来とて。毋詰ひ

て。娘が部屋つゞきて行きぬ。尼ら後田よむうひて。明日吉日
あるぜ。志をより。聘物おくりおこせ
おのれ。ととのへ。後田うおづきて。尼が労を謝して。よろこび
いひて。泗歩して尼とのまを。娘小松ち雲井が来ぬをう見て
がりて。さもぐくらふ中よ。父毋三保の家の約束を告き
て。おのれもち。外へよのおく世んとのうるさ。
ありの父毋ちろき名を名取りのうるさ。我れをさう
とのゝぐ。雲井おのれとまりてあれ。
此事よくとりこしてんとのゝぐ。娘ら
のまさ〳〵ろを慰め

そう。雲井夜さぶらう小松が下さそひあて。
とし比の物語もしそく夜をあかしつさて翌日よりそく。
志太三長者壮若東うらうそ生そもて従者ま組緒ぞ甚
よはみしろを殺多めしてて入来ぬ。残田親子生むくま
奥の間ま請じのまう志ちが心そく今日吉日ゆて必ずの
の聘物をうう。ちひそく。幣より金とり生て基ぞよさそあて具
ち小松屋の衣服の料ま生あうさるあり。取り納めのひて。
湧かきてのそうあんとらうあ残田親子一礼してまづこて
盃そう生て。善の膳を。志ちが前よさそあてよさ多ぐ乃者

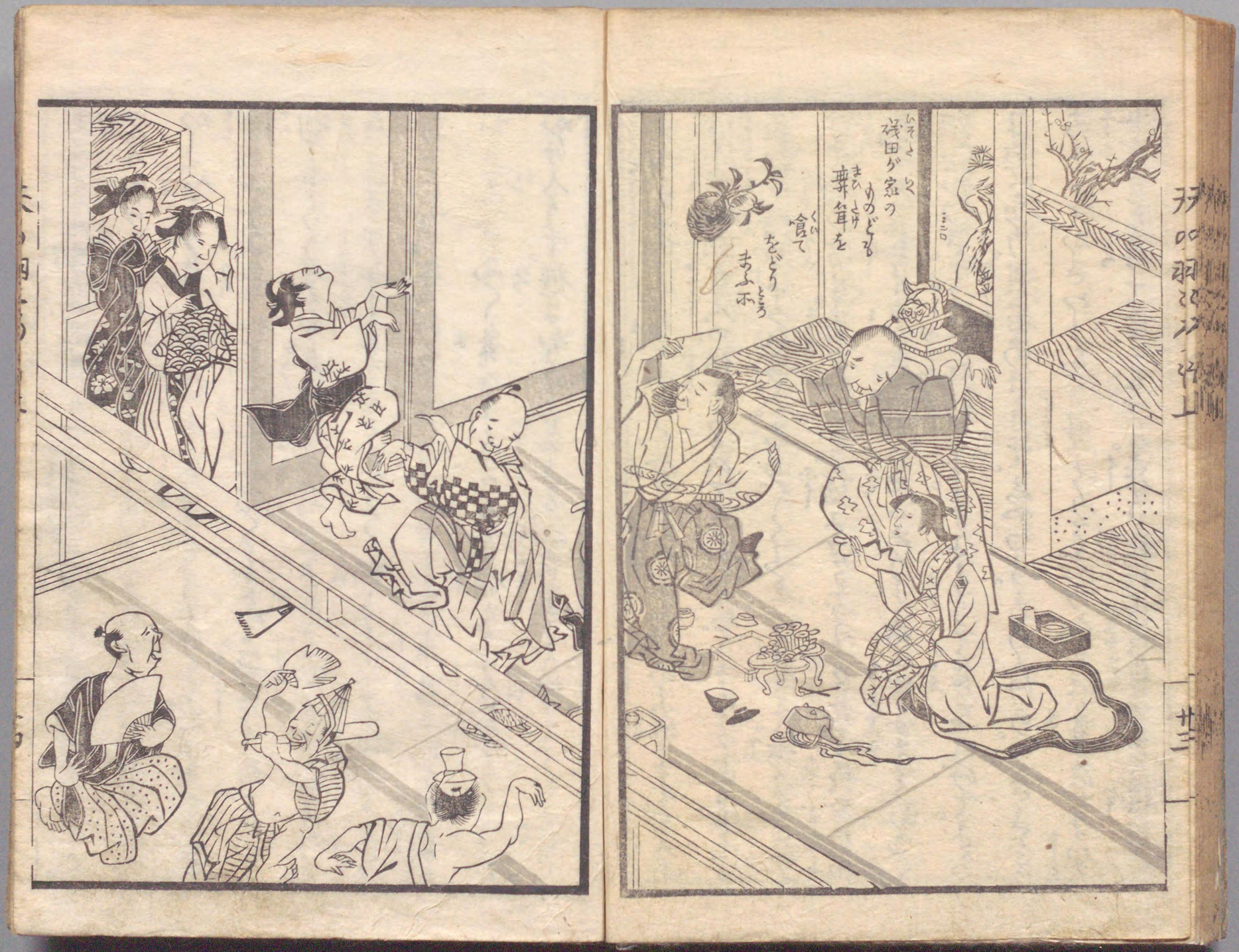
どもあらくさそて。長者夫婦黒良もかこうを左りて並ま
を吸つ。酒をのむ家の肉のそのたの。
寝ぬて。ちうくう善ま吸て。塊ま。
ちさまざまさ事ふおのひて。物をぶよの
井を通づけてふうくこらふ奥の
回ら志ちがさらうま親子さうあくひて。盃の数かさありて。
ふぎたくまく母ぐちう残田の長者印とう生て黒良ふそこ
て聘物の金うけとうしまうの文うま
まあうせよくうぐ黒良手ふりて。稲妻の椀を左の手ふ

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

持てうち吸つ。盃とりてみさくらく飲ろ〳〵。傍耳眼
をさ〳〵。つゐくちもて扇うちひろげて大なるあゝをあげて。網
をたゞべて。たゞをうて。たんとこゝろんで。まうてくる。よろづをそ
まうてくる。たんあくたりらくとらくと。手をかざくて。さあゞく
よ舞をどる。長者まの娘さゝをひうま。荏舞ちゝうさあサを
よ。御手をとりてゆづき。心水空うちまつ
しぐ。の志をも。おぼ〳〵扇をもてひやうし
をとる長者まの娘。面大ゞ方を見まざ。〳〵立てこまも周く
舞出まをまの娘あまをまこ〳〵。もまざ水。手をうちひく。

そらのあをを出して無味あり〳〵。常よ舞楽あどのふ物をもゝみよ
ぶふ見ね田舎人の。俄よるひてまふ
盃銚子曙のさゞびあゞ。さらゞ〳〵ふ
さて厨の方も表のかゝも。傍よさ
驚きて立出て見まざ。家の内よあり
鍋をかづき。さり本柄杓あゞ手よ
まひてちり長者あきまざて。ちやつ
あそこて。かゝつゝある。箒とりて。かのうるひ舞ひちる男
あゞゝもを打てまさまざ。走り逃ぢく。狂舞てちり。銭田も。

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用



国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

あまりの事よおきき生て。立ちあがりしが。
傍の内の者のとりあへくあわてふためきて。おのづ
から心うき生て。かの持る箒うちさしかざし。さるあるきま
同じやうよ舞生まを。つまびらかに猶走りあるきく。
制してありくるが夫が舞生つまを見てみこそもそろまを
舞ひ生まを男女とものま手まあるる楯ふくろ茶椀あがうち
あつまつて。舞ひくるくるだ。さるがしまを
おまさおづ生く舞ひくるくるが。猶もどうもあがう。義ま母
かけ入りて。梶まかくる生くるる。羽衣をとり生くうち着て。

舞まさまを。しばし。志ばかりもち来まる二百両の金を手まさしげて外の
かたく舞ひて生くるが。かの金を大路ふむきて無つく蹄ちくを
志をげ下人とも。持きくる絹綾あどをひき裂破りて。おのく
肩よりうちかけて生くまよ笛ひてをどる。叶時娘とを楼まありそる
が。あまりよ物さわがしく生くるが。下人まを未下見生ざる多の肉の
うちの父母兄ををどめ。ありべらばで。猶よ酔まりて。
ありて。ひさくく舞ひてをまざる散きそ。ひうちあるうちそこ
雲井よ舞ひて。雲井うちうちひうふ事
ありうまよ。まのよく不審

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

たてまつる。その子細のうかゞひ給はゞ。雲井にひゞくばかりの
我がもちまいらせたる算を食べ給へ。まゐ
かの算を。舞算とやいふ。まひ
酒よ酔へとすゝめ。おのつから舞まひ
ひとり醒て。しばらくのやうにありつゝ。
又君を志ざす姫子せんとのよしを設
て。なほ君の心ざしを遂
のそんやうのたなどりまでふそくれとの
志をと黒良と大路へ出て舞ひをるを一村の者ども来て不思議

の事として各立て見る。此時白良が家ある人の中へまでも
て。見あらはすなり。黒良がおかづきをとる衣よりつねの物あらぬ。
あゝ我主の尋ねまうす羽衣や。
事あらねば。白良をよび来て見
人をよせて。おのれ〳〵出よ。雲井出来て悼とぶ
人の衣なる衣を我こそ今
とり出さゝんとしてとく持給へ。
久しかりけん事ゆく。おのれ
家一ぱいぬ黒良を。
羽衣を。

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166
ガラス使用

208
2
166

そぐろよろひてありくるが田舎
家の内の者どもも皆そくさくと成て
ゐうねく正気でつきくる。廿日
程貸をとりて。ひめの生家の内のもの。
世おを思ひきりの事もありくる尼
今昔物語の舞鶴をとひくる尼どもの
事を載もとり。其ところ宮あるべし。
有々くる〳〵

天羽衣上終

国立国会図書館　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用

国立国会図書館　　天羽衣 2巻 208-166

ガラス使用